

2023

令和5年度



Wakayama University
Center for Japanology Studies

日本学教育研究センター

事業報告書



wakayama
univ.

目次

	頁
【1 基幹事業概要】	3
（1）海外大学との交流締結状況	4
（2）交換留学 受入状況	6
（3）交換留学 派遣状況	7
（4）日本語・日本文化研修留学生（日研生） 受入状況	7
（5）協定調印式	7
（6）来訪者（海外協定大学等）	8
【2 日本語・日本文化教育関連事業報告】	9
（1）2023 年度日本語・日本文化・日本学教育関連事業の概要	10
（2）わかやま日本学副専攻プログラム/わかやま日本学プログラム	10
（3）授業風景	12
（4）イベント	13
<第 15 回作文コンクール>	
<第 21 回学長杯 留学生によるスピーチコンテスト>	
<日本語日本文化研究発表会>	
<国際シンポジウム第 3 回「アジアにおける日本語教育-日本語教育と日本学-」>	
（5）全体まとめ	16
【3 国際教育・交流事業】	17
（1）【短期受入】ブリッジウォーター州立大学訪問	18
（2）【短期受入】サマープログラム（7月）	19
（3）【短期受入】ウィンタープログラム（2月）	20
（4）【短期派遣】フランス研修	21
（5）【短期派遣】第 11 回タイ・プログラム	22
（6）【短期派遣】第 9 回インドネシア・プログラム	23
（7）オンラインによる国際協働学習 (COIL) 型教育の実施	24
（8）多言語サロン	25
（9）留学生地域交流（派遣・受入）	26
（10）JICA 地域理解プログラム受入	27
（11）国際機関セミナー（世界銀行）	28
（12）アフリカ写真展	28
（13）留学説明会	29
（14）国際同窓ネットワーク（OB・OG ネットワーク）	29
日本学教育研究センタースタッフ一覧	30

【 1 基幹事業概要】

(1) 交流協定締結状況

2023年度は、新たに下記9大学と交流協定および学生交流協定を締結した。

国名	大学名	交流協定	学生交流	締結日
アメリカ合衆国	サンフランシスコ州立大学	○		2023年4月18日
モンゴル国	モンゴルコーセン技術カレッジ	○		2023年9月18日
	モンゴル科学技術大学附属高専	○		2024年3月25日
インドネシア共和国	ブラウイジャヤ大学	○	○	2023年11月15日
タイ王国	チェンマイ大学	○	○	2023年12月8日
ベトナム社会主義共和国	ダナン大学	○		2023年12月19日
マレーシア	i-CATS 大学	○		2024年3月18日
	マレーシアサラワク大学	○		2023年3月19日
トルコ共和国	デュズジェ大学	○		2024年3月15日

2023年度末（2024年3月31日）において、下記の大学と協定を締結しています。

	国名	大学名
1	大韓民国	慶北大学校
2		公州大学
3	ベトナム社会主義共和国	ホーチミン市師範大学
4		ハノイ国家教育大学
5		ダナン工科大学
6		ドンア大学
7		ベトナム外交学院大学
8		ハノイ貿易大学
9		ハノイ大学
10		フェニカ大学
11		ダナン大学
12	中華人民共和国	浙江師範大学
13		山東師範大学
14		山東大学
15		吉林大学
16		東北財経大学
17		首都師範大学
18		華東師範大学体育健康学部
19		山東財経大学

20		東北大学
21		西安交通大学
22		鄭州大学
23		福建師範大学
24	フランス共和国	トロワ工科大学
25		コンピエーニュ工科大学
26		ベルフォール・モンベリヤール工科大学
27		パリ大学
28		オーデンシア・ビジネススクール
29	スペイン王国	サラゴッサ大学
30		サンディアゴ・デ・コンポステーラ大学
31	アメリカ合衆国	西フロリダ大学
32		ウイスコンシン大学 ミルウォーキー校
33		ブリッジウォーター州立大学
34		サンフランシスコ州立大学
35	グアテマラ共和国	サンカルロス大学
36	オーストラリア連邦	カーティン大学 カーティン・ビジネス・スクール カーティン言語・異文化教育スクール
37		デイキン大学
38	タイ王国	カセサート大学
39		テープサトリ・ラチャパット大学
40		チェンマイ大学
41	インドネシア共和国	ガジャマダ大学
42		ビナ・ヌサンタラ（ビヌス）大学
43		ブラウイジャヤ大学
44	ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学
45	マレーシア	i-CATS 大学
46		マレーシアサラワク大学
47	モンゴル国	モンゴルコーセン技術カレッジ
48		モンゴル科学技術大学附属高専
49	フィリピン共和国	フィリピン国立大学
50	英国	セントラル・ランカシャー大学
51	カザフスタン共和国	カザフ国際関係外国語大学

52	ブラジル連邦共和国	グランデ・ドラーズ大学
53	クロアチア共和国	オシエク大学
54	ウズベキスタン共和国	ブハラ国立大学
55		ウズベキスタン国立世界言語大学
56		タシケント国立経済大学
57		タシケント建築土木大学
58		ウズベキスタン世界経済外交大学
59		シルクロード国際観光大学
60		シンガポール経営開発研究所タシケント校
61		東洋学大学
62	トルコ共和国	デュズジェ大学
63	ロシア連邦	ペルミ国立大学
64	セルビア	クラグイエヴァツ大学
65	ボスニア・ヘルツェゴビナ	東サラエボ大学

(2) 交換留学 受入状況

国	大学名	受入人数
ベトナム	ホーチミン市師範大学	2
	ハノイ大学	2
	ベトナム外交学院大学	2
中国	山東師範大学	2
	首都師範大学	2
	浙江師範大学	10
	鄭州大学校	15
	山東大学	1
	西安交通大学	2
	東北財経大学	5
	東北大学	3
韓国	慶北大学校	2
オーストラリア	カーティン大学	1
ウズベキスタン	シルクロード国際観光大学	1

(3) 交換留学 派遣状況

国	大学名	派遣人数
アメリカ	ブリッジウォーター州立大学	3
韓国	慶北大学校	3
イギリス	セントラル・ランカシャー大学	2
オーストラリア	カーティン大学	1

(4) 日本語・日本文化研修留学生 受入状況

国	大学名	受入人数
中国	浙江師範大学	1
ウズベキスタン	ウズベキスタン国立世界言語大学	1
インドネシア	ビナ・ヌサンタラ大学	1
ベトナム	ドンア大学	1
インド	ティラク マハラシュトラ大学	1
スリランカ	ケラニア大学	1
ブラジル	サンパウロ大学	1

(5) 協定調印式

大学名	会場	実施日	協定内容	
			交流	学生
モンゴルコーセン技術カレッジ	モンゴルコーセン技術カレッジ	2023年9月18日	○	-
モンゴル科学技術大学附属高専	和歌山大学	2024年3月25日	○	-
ダナン大学	ダナン大学	2023年12月19日	○	-
i-CATS 大学	i-CATS 大学	2024年3月18日	○	-
マレーシアサラワク大学	マレーシアサラワク大学	2024年3月19日	○	-



モンゴルコーセン技術カレッジ



モンゴル科学技術大学附属高専



i-CATS 大学



マレーシアサラワク大学



ダナン大学

(6) 来訪者（海外協定大学等）

- 2023年6月28日 東北财经大学日本語学科長の胡偉先生が来訪
オンラインで国際交流処の陶碩処長を交え意見交換
- 2023年7月4日 山東師範大学訪問団（教員7名・学生67名）が来訪
- 2023年10月10日 ホーチミン市師範大学 Cao Anh Tuan 副学長らが来訪
- 2023年11月22日 鄭州大学葛先生が来訪

◆ホーチミン市師範大学来訪時の模様（2023年10月10日）

本学と大学間協定を締結しているホーチミン市師範大学から、Cao Anh Tuan 副学長をはじめとする職員4名が本山学長を表敬訪問されました。はじめに本山学長から「教員・学生間の活発な交流や短期派遣プログラムに感謝している」との歓迎の挨拶がありました。長友先生からはホーチミン市師範大学からの留学生の紹介と交流について報告がありました。Tuan 副学長からは「温かい歓迎をいただき感謝している。今後とも両大学の交流を活発に継続していきたい」と抱負を述べられました。



【 2 日本語・日本文化教育関連報告】

2023 年度日本語・日本文化・日本学教育関連事業報告

日本学教育研究センター 教授 長友 文子
 Ayako NAGATOMO
 准教授 安本 博司
 Hiroshi Yasumoto
 特任助教 嶋本 圭子
 Keiko Shimamoto

(1) 2023 年度日本語・日本文化・日本学教育関連事業の概要

2023 年度には、正規学生を対象とした「わかやま日本学副専攻プログラム」と、非正規学生を対象とした「わかやま日本学プログラム」を新たに開設しました。日本語科目は留学生が受講しますが、日本文化や国際文化に関連する科目は、日本人学生と留学生が共に学ぶ共修科目となっています。様々な国から集まった学生が日本学を学ぶことで、日本文化をより深く理解する機会が提供されます。また、増加する留学生の多様なニーズに対応するため、これらのプログラムでは新たな科目が開設されました。以下では、新たな一步を踏み出した日本学プログラムの内容をご紹介します。

(2) わかやま日本学副専攻プログラム／わかやま日本学プログラム

わかやま日本学副専攻プログラム

わかやま日本学副専攻プログラムは、日本文化が集積する和歌山の地に根づく知恵や知識の学びと体験を通して、日本語とその背景にある日本文化を統合した日本学を修め、日本文化への深い理解力を培う教育プログラムです。様々な国の学生と共に日本学を学ぶことで、日本及び世界の諸課題をグローバルな課題の中に位置づけながら、理解、表現する能力を涵養します。

カリキュラムマップ

年次	1年	2年	3年	4年
日本文化関連	必修 日本学概論	必修 日本学演習	必修 日本学特論	
10 単位	選択 日本事情(日本の社会と文化) 選択 世界の中の日本語 選択 ビジネス・コミュニケーション	選択 外国語として学ぶ日本語 選択 ビジネス日本語	選択 指定した選択科目*	
4 単位	選択 日本語科目 (外国人留学生のみ)	選択 英語・初修外国語科目		
国際連携関連	選択 国際開発論	選択 グローバル社会論	選択 指定した選択科目*	

和歌山大学

わかやま日本学プログラム

わかやま日本学プログラムは、日本文化が集積する和歌山の地に根づく知恵や知識の学びと体験を通して、日本語とその背景にある日本文化を統合した日本学を修め、日本文化への深い理解力を培う教育プログラムです。様々な国の学生と共に日本学を学ぶことで、日本及び世界の諸課題をグローバルな課題の中に位置づけながら、理解、表現する能力を涵養します。

わかやま日本学プログラムの3つの柱

- 「コミュニケーション能力」**
日本語を履修し、コミュニケーションの基礎的な力を身につける。
●実践的な日本語教育を通して、多様な課題を持つ学生・学内外・地域の人々とのコミュニケーションや、プレゼンテーションができる基礎能力を涵養する。
●留学生が本学の学生と共に日本文化を学ぶことを通じて、多様な観点から日本文化を説明できるスキルを身につける。
- 「理解と表現」**
紀伊半島を中心とした日本文化体験を通して、和歌山への深い理解力を培い、日本文化、日本社会への関心を高め、国内外の人々にその学びを発信することができる。
- 「俯瞰的な視野」**
「わかやま日本学プログラム」を通して学修・体験したことを国際的な視点や和歌山の視点から位置づけるとともに、多様な多様な人々との交流・協働の経験を通して異文化を理解する能力及び実践力を身につける。

わかやま日本学プログラムの修了認定について

非正規学生として本学規定に定める期間在学中、所定の18単位を修得した学生には、「修了認定証書」を交付します。

Wakayama Japanology Studies Program

和歌山大学

開講科目

2023年度

	科目名	科目区分	単位	内 容	
日本文化関連	必修 日本学概論	教養科目【基幹】	2	多言語多文化共生が必要とされる国際化の時代において、日本の社会や文化に関心をもつ学生を対象とする科目です。和歌山を含む地域を日本及び国際的な視野に関連付けて、言語、社会などの多様な視点から日本語・日本文化・日本社会を取り上げ、広く日本学の基礎を学びます。	
	選択必修 日本学演習	教養科目【実践】	2	日本文化について関心をもつ学生を対象とする科目です。和歌山及び周辺地域でのフィールドワークを通して、歴史や文化、ポップカルチャーなどを学ぶとともに、伝統文化に関する体験学習を組み込むことで、日本文化を総合的に理解することを目指します。また、体験学習から発表までの一連の活動を通して、個々の文化理解を深めていきます。	
	選択 日本学特論【後期のみ】	連携展開科目	2	語学科目、日本学概論で学んだグローバルな視点などを土台に、日本語、日本文化、日本の社会についてテーマを取り上げ、講義やディスカッションを通して、日本学についての理解を深めます。講義には、ゲストスピーカーを招く予定です。	
	選択 日本事情 (日本の社会と文化)	教養科目【実践】	2	現在日本の衣・食・住といった生活文化や、家族や地域社会の在り方などについて学び、また、和歌山の伝統的な祭りに参加したり、日本の料理や武道や遊びなどを体験したりするなど、多様な学習を通して日本について学びます。	
	選択 ビジネス・コミュニケーション	連携展開科目	2	将来、日本企業や日本を市場とする企業などへの就職を志望する学生を対象とする科目です。ビジネス場面で使用される日本語の会話力や文書力を身につけます。	
	選択 世界の中の日本語	連携展開科目	2	日本語を母語としない学習者に対する日本語教育に関心をもつ学生を対象とする科目です。日本語を「国語」としてではなく「外国語としての日本語」としてとらえ、日本語の特徴を学び、外国人に対する日本語の教え方や、「やさしい日本語」「聴承語」など多言語社会における日本語、日本語教育の問題について学びます。	
	選択 ビジネス日本語	連携展開科目	2	将来、日本企業や日本を市場とする企業などへの就職を志望する学生を対象とする科目です。ビジネス場面で使用される日本語の会話力や文書力を身に付け、日本企業の商品、宣伝・広告、社会貢献活動・SDGsへの取り組みなどについて調査・発表し、さらに日本文化の基礎教養を身につけて、将来日本企業などで活躍することを目指します。	
	選択 外国語として学ぶ日本語	連携展開科目	2	日本語を「外国語」として見る目を養い、その基本的な文法や語彙を、日本語学習者がわかる日本語で説明できるスキルを学びます。また、日本語教師になるための基礎知識を身につけ、理論に基づいた実践ができるようになることを目指します。	
	10 単位	選択 *指定した選択科目 《最大4単位まで含むことができる》 民俗芸能論 わかやまを学ぶ Survey of Pre-Modern Japanese Poetry in Translation Survey of Pre-Modern Japanese Prose in Translation	教養科目【基幹】	各2	
		4 単位	選択必修 日本語科目 ※外国人留学生対象 英語・初修外国語科目	教養科目【実践】 教養科目【実践】	各2
国際連携関連	選択 国際開発論	教養科目【基幹】	2	SDGsの諸課題について、履修者の出身国・地域間の比較調査研究や解決に向けた考察をおこないます。グループによる調査研究・分析においては、「わかやま日本語専攻」で得た知見も含め、多様な視点から解決方法を考える能力を身につけます。	
	選択 グローバル社会論	連携展開科目	2	現在の不安定かつ流動的な国際政治・経済・社会をどのように分析し、今後の世界を展望するかについて、各国の学生の視点や意見を踏まえながら考察していきます。	
	4 単位	選択 *指定した選択科目 《最大2単位まで含むことができる》 国際協力論 教養科目【基幹】 ASEAN と日本 教養科目【基幹】 異文化コミュニケーション共同演習 B ※外国人留学生は対象外 連携展開科目 多様な視点からみる現代東南アジア 教養科目【基幹】		各2 1	

(3) 授業風景

【日本事情】



【日本学演習－フィールドワーク（和歌山城）】



(4) イベント

本センターでは、プログラムとしての科目開設の他に、毎年いくつかのイベント事業を企画開催しています。2023年度に開催した主なイベントは、次の通りです。

<第15回作文コンクール>

日本学教育研究センターでは、「留学生から見た和歌山」というテーマで作文募集を行いました。コンクールの趣旨は、「留学生が見た、感じた、体験した和歌山・和歌山大学」を、母語と日本語で書き、世界に紹介しようというものです。

【最優秀賞】 Cecilia Aurellica Sandjojo 日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）

【優秀賞】 Gupte Ruta Prashant 日本語・日本文化研修留学生（インド）

Ta Nguyen Thuy Tien 日本語・日本文化研修留学生（ベトナム）

【特別賞】 Karandeniya Dewage Pubudu Dilshan 日本語・日本文化研修留学生（スリランカ）

Rumbidzai Matikiti 経済学部1年（ジンバブエ）

李 晶晶 教育学部 交換留学生（中国）

【努力賞】 童 倩妮 日本語・日本文化研修留学生（中国）

Kurup Kaavya Jitendra 日本語・日本文化研修留学生（インド）

範 曉萌 教育学部 交換留学生（中国）

胡 瓔容 教育学部 交換留学生（中国）

林 婉穎 教育学部 交換留学生（中国）

Valverde da Silva Julia Cristina 日本語・日本文化研修留学生（ブラジル）

張 潜弋 教育学部 交換留学生（中国）

Sisman Rabia Melisa 日本語・日本文化研修留学生（トルコ）

王 楠 教育学部 交換留学生（中国）

Khudayshukurov Komronbek Doniyorovich 日本語・日本文化研修留学生

(ウズベキスタン)

応募者の作品は、日本学教育研究センターHPに掲載されています。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/data/sakubun/introduce15.html>



<第21回 学長杯 留学生によるスピーチコンテスト>

第21回「学長杯、留学生によるスピーチコンテスト」は、対面での開催となりました。今回も、和歌山県、和歌山市、(公財)和歌山県国際交流協会、NPO 法人 WIN コンコード、国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川、高野山大学、和歌山工業高等専門学校、和歌山 YMCA 国際福祉専門学校に後援していただきました。

【発表の様子】



応募者の作品は、日本学教育研究センターHPに掲載されています。

(https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00710398/speech_2023.pdf)



<日本語日本文化研究発表会>

「日本語日本文化研究」の授業では、日本語日本文化研修留学生が、言葉と文化について研究を行います。1年間かけて、テーマを選び、文献調査やアンケート調査、インタビューなどを行い、日本語日本文化研修留学生としての修了レポートを完成させます。

発表者とタイトルは、日本学教育研究センターHPに掲載されています。

(https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00702300/nikkensei_report2023.pdf)



<国際シンポジウム 第3回「アジアにおける日本語教育—日本語教育と日本学—>

日時：2024年2月15日（木）13:00～16:50

参加者：オンライン登録者数133名（参加者89名）/会場参加者28名（うち本学留学生13名）

内容：京都教育大学の浜田麻里先生による基調講演「参加型日本学のすすめ～京都教育大学『体験しよう！京都』プログラムを例として」の後、本学での日本学の取り組みについて報告、そして、中国、ベトナム、インドネシア、韓国の大学から、各大学における日本語教育、日本学の取り組み事例をご紹介します。

Wakayama University Symposium Series Vol.3
和歌山大学国際シンポジウム
アジアにおける
日本語教育と日本学
日本語教育

和歌山大学日本語教育研究センターでは、2023年4月に「わかやま日本学副専攻プログラム」がスタートしました。このプログラムでは日本文化を学び、異文化を理解し、社会的な課題解決に寄与する人材の育成を目標としています。そのため、このプログラムでは座学(日本人学生と留学生の共修)とフィールドワークを関連させながら、課題解決に向けた学習を実施しています。本シンポジウムでは、日本語教育と日本学に関する基調講演「参加型日本学のすすめ～京都教育大学『体験しよう！京都』プログラムを例として」の後、本学での日本学の取り組みについて報告します。そして、中国、ベトナム、インドネシア、韓国の大学から事例紹介をしていただきます。

参加無料

参加方法はオンライン(Zoom)、または、和歌山大学北1号館1階A101特設会場にて。

2024年 2月15日(木) 13:00～16:50 (日本時間)

基調講演
「参加型日本学のすすめ～京都教育大学『体験しよう！京都』プログラムを例として」
京都教育大学 教授 浜田 麻里

総括
和歌山大学日本語教育研究センター センター長 長友 文子

事例発表

事例発表司会 日本語教育研究センター 特任助教 嶋本 圭子

右記QRコードまたは和歌山大学日本語教育研究センター(CJS) HPから登録フォームにて事前にお申し込みください。

Wakayama University Center for Japanology Studies
和歌山大学

(5) 全体まとめ

以上、2023年度の「わかやま日本学プログラム」の開講科目と、年度内に行われた主なくイベントを紹介しました。2024年度も引き続き、新しいプログラムの下で、教育活動を展開していきます。今後、プログラムの検証も含め、日本学教育研究センターにとって、日本語・日本文化教育関連事業の充実化がますます重要になってゆきます。

【3 国際教育・交流事業】

(1)【短期受入】ブリッジウォーター州立大学訪問

学生間の交流締結しているブリッジウォーター州立大学（アメリカ）との協定更新にあたり、交換留学生数の不均衡を解消するため先方からの強い要望があり、世界遺産に有名な高野山という観光資源をどのように活用・保護しているのかに焦点をあて、観光経営学等の講座を中心とし、本学において短期研修を実施した。ブリッジウォーター州立大学より引率教員1名（Dr. Chien Wen Yu）を迎え、また学生9名を短期交流学生として受入れた。日本人学生にとっても、キャンパス内で国際交流ができ、BSU学生は日本人学生から日本語や日本文化に触れることで、双方の学生にとって絶好の機会となった。

実施日：2023年5月18日（木）～22日（月）

実施場所：和歌山大学

参加者：BSU教員1名、BSU学生9名



高野山にて



修了式の集合写真

(2)【短期受入】短期交流学生受入れプログラム(サマープログラム)

7月3日(月)～7日(金)の間、3か国4協定大学より9名を短期交流学生として受け入れ、短期交流学生受入れプログラム(サマープログラム)を実施した。日本語授業及び日本文化体験を軸にプログラムを展開し、日本文化体験では和菓子作りのワークショップを実施した。また、交流高野山訪問では、高野山大学の協力のもと、高野山の見学及び高野山に来た観光客にインタビューを行い、最終日にグループごとに高野山訪問についての発表を行った。

実施日：2023年7月3日(月)～7日(金)

実施場所：和歌山大学

参加者：中国4(浙江師範大学4)、ベトナム3(フェニカ大学2、ダナン工科大学1)、オーストラリア2(カーティン大学2)、



和菓子作りワークショップの様様



修了式での集合写真

(3)【短期受入】短期交流学生受入れプログラム(ウィンタープログラム)

オンラインによる短期交流受入プログラム(ウィンタープログラム)を実施し、4か国7協定大学より35名の申込みがあった。第1日目(2/26(月))の開講式では、わかやま日本学プログラムの紹介、サマープログラムの紹介、留学生による和歌山・和歌山大学の紹介が行われ、その後コリنز外国人教師による高野山についての授業が行われた。第2日目(2/27(火))は日本語教員による日本語体験授業が行われ、参加者は事前に提示されたテーマについてグループワークを行い、その後各グループで話し合ったテーマについての内容を発表した。グループワーク終了後、長友センター長から日本語体験授業のコメントと共に閉会の言葉がありウィンタープログラムを終了した。

実施日：2024年2月26日(月)～2月27日(火) 15:00～17:10

実施方法：Zoom ミーティング



コリنز外国人教師による高野山についての授業



グループワークの様様



全体の集合写真

(4)【短期派遣】オーデンシア・ビジネススクール短期フランス語研修



プログラム名：オーデンシア・ビジネススクール短期フランス語研修

日時：2024年2月26日（月）～3月6日（水）

場所：Audencia Business School（フランス：ナント）

担当教員：日本学教育研究センター 安本博司

参加者：7名

<プログラム・スケジュール>

	AM	PM
2月26日 （月）	歓迎会、オリエンテーション	【授業】フランス語
2月27日 （火）	ナント市内ツアー	【授業】・フランスライフスタイル入門 ・フランス人学生と日本語交流
2月28日 （水）	【授業】フランス関連授業	【授業】・異文化マネジメント ・フランス人学生と日本語交流
2月29日 （木）	【授業】・異文化マネジメント	フィールドトリップ（ハウス・オブ・ヨーロッパ）
3月1日 （金）	企業訪問（コアントロー蒸留所）	フィールドトリップ（城、アンティーク図書館）
3月2日 （土）	休日：フリータイム	
3月3日 （日）	フィールドトリップ（クリソンのガイドツアー）	フィールドトリップ（ブドウ畑、ワイン農園）
3月4日 （月）	【授業】・異文化マネジメント	【授業】フランス関連授業
3月5日 （火）	フィールドトリップ（ロワールの古城見学）	【授業】フランス馬術の伝統について学ぶ
3月6日 （水）	【授業】・異文化マネジメント	フェアウェルパーティ

(5)【短期派遣】第 11 回タイ・プログラム(「海外体験演習(タイ)」)

日本学教育研究センター 藤山 一郎

日 時： 2024年2月15日～26日

場 所： タイ王国 (バンコク、アユタヤ、チョンブリー、チェンマイ)

参加者： 1年生13名、2年生1名

「タイ・プログラム」は1回生のみが参加できる短期海外体験学習であり、いわゆるグローバル人材育成の起点として位置づけている。今回は13名の参加を得た。現地渡航は2月15日から26日までの12日間であるが、事前講義から事後講義も含めると約1年間にわたる長期のプログラムである。

本プログラムは多様な文化、歴史が交錯するタイに身を置いて他者を理解し、翻って自己を振り返ることを目標としている。首都バンコク郊外の学校(協定大学附属校)、およびタイ第2の都市チェンマイ郊外の学校(中・高併設)における交流活動および調査活動を実施した。参加学生は、後期セメスターの事前講義として、交流企画や調査内容など多様な課題について準備を重ねてきた。

本プログラムは、カウンターパートとしてタイの教育NGO「The Education for Development Forum(EDF)」と共同で開発をおこない、EDFスタッフが全日程にわたって同行した。同行中は参加学生と英語で様々な説明や日常会話をおこない交流を深めてきた。

日 程	内 容	地 域
1日目	関西空港→バンコク オリエンテーション	バンコク
2日目	アユタヤ移動 歴史遺産・寺院遺跡見学	バンコク・アユタヤ
3日目	バンコク市内寺院見学 フリーマーケット体験	バンコク
4日目	Ecotourism Samut Prakan 見学・植樹体験	バンコク
5日目	カセサート大学附属学校マルチリンガルプログラム校訪問・文化交流1日目	チョンブリー
6日目	カセサート大学附属学校マルチリンガルプログラム校訪問・文化交流2日目	チョンブリー
7日目	バンコク→チェンマイ移動 寺院見学	チェンマイ
8日目	Bankadwittayakom School 校訪問・文化交流1日目	チェンマイ
9日目	Bankadwittayakom School 校訪問・文化交流2日目	チェンマイ
10日目	Bankadwittayakom School 校訪問・文化交流3日目・托鉢体験・お別れ会 象保護センター見学	チェンマイ
11日目	チェンマイ郊外見学 チェンマイ空港発⇒スワンナブーム空港着	チェンマイ 機内泊
12日目	スワンナブーム空港発⇒関西空港着	

<カセサート大学附属学校マルチリンガルプログラム校交流>



<Bankadwottayakom 校交流>



(6)【短期派遣】第9回インドネシア・プログラム(「海外体験演習(インドネシア)」)

日本学教育研究センター 藤山 一郎

日 時： 2024年3月3日～13日

場 所： インドネシア共和国 (ジョグジャカルタ・バリ)

参加者： 9名 (1年生1名、2年生8名)

9回目となる「インドネシア・プログラム」(「海外体験演習(インドネシア)」)は、9名の参加者を得て、11日間で実施した。事前講義から事後講義を含めると約9ヶ月にわたる長期のプログラムである。

本プログラムは、協定校であるガジャマダ大学 Vocational School (ジョグジャカルタ) の観光マネジメントコースおよびビジネスコミュニケーション日本語コースと共同で、現地の「観光村」の社会的課題について事前調査・現地調査をおこない、住民に対して解決提案をおこなうPBL型を採用している。

事前講義では、観光村から与えられた3つの課題を本学学生とガジャマダ大学生で構成される各グループが、調査計画の立案や事前調査をオンラインで進めた。その上で、現地で3日間にわたり、実地調査・体験を経て、最終日に調査結果発表と提案をおこなった。

R6年度前期では、発表内容や住民の反応などをとりまとめ、成果報告書を作成し学びの定着をはかる。

<観光村合同調査>



日 程	内 容	地 域
1 日 目	関西空港-シンガポール(経由)	空港泊
2 日 目	シンガポール⇒ジョグジャカルタ着 オリエンテーション	ジョグジャカルタ
3 日 目	市内見学 ガジャマダ大学 Vocational School オープニング・セレモニー レクチャー・ミーティング	ジョグジャカルタ
4 日 目	カラアセム観光村調査1日目	ジョグジャカルタ
5 日 目	カラアセム観光村調査2日目(ホームステイ)	バントゥール
6 日 目	カラアセム観光村調査3日目(調査 提案報告)	ジョグジャカルタ
7 日 目	世界遺産(ポロブドゥール寺院遺跡)・ ムラビ山震災復興見学	ジョグジャカルタ
8 日 目	ジョグジャカルタ空港⇒バリ空港	バリ
9 日 目	バリ(ニュービ)	バリ
10 日 目	バリ市内見学 バリ空港⇒クアラルンプール(経由)	バリ(機中泊)
11 日 目	クアラルンプール⇒関西空港着	

(7)オンラインによる国際協働学習(COIL)型教育の実施

日本学教育研究センター 藤山 一郎

オンラインによる国際教育プログラムとして、昨年度から引き続き「異文化コミュニケーション共同演習」を通年（前期・後期）で開講するとともに、再開した「インドネシア・プログラム」の事前講義（「国際協力実践演習 I」）に COIL 型学習を新たに採り入れた。

①教養科目「異文化コミュニケーション共同演習 A・B」

【授業概要】

本授業は、本学の協定校であるビナ・ヌサンタラ大学（以下、ビヌス大学）の人文学部日本語学科と合同で実施するオンライン国際協働学習(COIL)形式の授業である(授業内容はA・B共通)。

共通テーマを、「SDGs からみた Before-After Pandemic の社会変化」とし、COVID-19 の世界的感染拡大のなかで日本やインドネシアで発生している社会変化に焦点をあてることとした。双方の学生でグループを形成し、グループごとにSDGsの17分野から1分野を選択し、調査テーマを設定した。

授業はおおきく3期に区分し、第1期を調査課題・調査計画の決定、第2期を調査実施と分析、第3期を発表資料の作成として、授業では進捗報告、質疑応答、コメントをおこなった。なお、各グループの調査結果の一部は、ビヌス大学が主催する国際研究集会で発表され、ペーパーが発行されている。

本授業は、2020年度後期から開講している。ビヌス大学側の担当者と協議しながら引き続き、授業内容の改善をはかっていきたい。

	履修者数	合同グループ数
前期(A)	和歌山大学：12名 ビヌス大学：7名	3チーム
後期(B)	和歌山大学：5名 ビヌス大学：3名	3チーム



写真1：授業（後期）時の模様



写真2：最終発表時の資料（後期）

(8) 多言語サロン

「多言語サロン」は国際交流・異文化理解を目的とした、本センター主催のプログラムです。留学生が講師となり、英語を中心とした言語、自国の文化や生活を紹介する「文化交流クラス」等を毎年2回（前期・後期）開講しています。本学において、留学生同士、あるいは留学生と日本人学生の親睦を深める役割を担っています。

①「多言語サロン 2023 前期」実施概要

日時：2023年5月15日（月）～6月23日（金）

開講クラス：英語3クラス・韓国語（各4～5回）
文化交流（5回）

参加者延べ人数：300名



②「多言語サロン 2023 後期」実施概要

日時：2023年11月13日（月）～12月22日（金）

開講クラス：英語4クラス・中国語（各4～5回）

参加者延べ人数：185名



(9) 留学生地域交流(派遣・受入)

本学では、留学生と地域の方々との国際交流を推進するため、交流授業やイベントへの留学生の派遣および大学への来訪受入れを行っています。今年度は、県内の小中学校の授業や国際交流団体主催のイベントに留学生を派遣し、出身国・地域の紹介を行う等の活動を通して、地域交流・国際理解を深めました。

【来訪】 大阪府立岬高等学校の学生と留学生の交流

実施日：2023 年6月7日

参加留学生：10名（インド・ウズベキスタン・イスラエル・ブラジル・インドネシア・中国）

【来訪】 メキシコ和歌山県人会子弟との交流

実施日：2023 年7月13日

【派遣】 WIXAS 親子参加型国際交流事業「和の輪」イベント

実施日：2023 年7月29日

参加留学生：2名（ソロモン諸島・ジンバブエ）

【来訪】 和歌山キワニスクラブ様 留学生向け炊飯器 贈呈式

実施日：2023 年10月12日

参加留学生：19名

【派遣】 広川町立津木中学校フレンドシップデイ

実施日：2023 年12月1日

参加留学生：6名（ソロモン諸島・ジンバブエ・イスラエル・中国・ベトナム）

【派遣】 附属小学校5・6年複式学級での交流授業

実施日：2023 年12月11日

参加留学生：4名（マレーシア・インドネシア・中国・ウズベキスタン）

【来訪】 橋本高等学校交流授業（日本語日本文化研究K内）

実施日：2024 年1月23日

参加留学生：日研生7名

【派遣】 藤戸台小学校6年3組交流授業

実施日：2024 年1月25日

参加留学生：5名（マレーシア・オーストラリア・中国・韓国・

【来訪】 中南米子弟との交流（日本語A上級）

実施日：2024 年1月30日

【派遣】 JICA 新庄中学校交流授業

実施日：2024 年2月13日

参加留学生：2名（スリランカ・インドネシア）



藤戸台小学校6年3組交流授業

(10) JICA 地域理解プログラム

日本学教育研究センター 石原 伸一

日時：2023年11月12日（日）

場所：有田市宮原地区交流施設「宮原さん家」、株式会社早和果樹園

参加者：和歌山大学教職員2名、観光学部学生4名（内留学生1名）、JICA 留学生13名、JICA 関西関係者2名

「みかんの価値向上」をテーマに、観光学部の学生と JICA 留学生（アジア・アフリカ・中南米10か国）が学び合うプログラムを、JICA 関西と連携して有田市で開催しました。有田市宮原地区交流施設「宮原さん家」では、観光学部の学生たちが取り組む地域連携プログラム（LPP）「青みかんの価値をあげる（宮原地区）」の活動を JICA 留学生に紹介し、石原特任教授のファシリテーションのもと意見交換会を行いました。JICA 留学生からは、「ブラジルではみかんの皮を使った料理のレシピがあるので、ぜひ共有させてほしい」など、和歌山大学の学生と JICA 留学生の間で、活発な意見交換が行われました。また、株式会社早和果樹園が年に一度開催しているみかん収穫祭「アグリファンフェスタ」に参加し、みかん収穫体験を楽しみました。最後に、インタビュー結果を学生間で共有し、活動の振り返りを行いました。和歌山大学の学生からは、「自分たちの活動を紹介するだけでなく、自分たちにはないアイデアも留学生から出されるなど、さまざまな国の学生との交流の楽しさをあらためて感じる事ができた」との声が聞かれ、学びの多いプログラムとなりました。



和歌山大学観光学部の学生による活動紹介



株式会社早和果樹園の秋竹社長と一緒に

(11) 国際機関セミナー

- 日時 : 2023年11月24日(金) 12時20分～13時10分
セミナー名称 : 「グローバルな開発課題と国際機関：世界銀行で働くということ」
講師 : 大森功一氏(世界銀行東京事務所 上級対外関係担当官)
参加者 : 本学学生11名

大森氏にお越しいただき、①世界の貧困状況と国際機関の役割、②開発金融機関としての世界銀行の役割と組織、③キャリアとしての世界銀行職員、についてお話いただいた。最後に参加者より、求められる語学力やキャリア形成に関する質疑応答があるなど参加者の関心がみられた。



(12) アフリカ写真展

- 日時 : 2023年11月25日(土)～12月3日(日) 9日間
主催 : 日本学教育研究センター、世界銀行、JICA 関西 共催
場所 : イオンモール和歌山
イベント名 : 写真展「アフリカの人々と場所」
参加者 : 来場者数 期間全体 2,151名
本学学生ボランティア参加者15名 社会人ボランティア1名

CJS 主催、世界銀行・JICA 関西共催にて、同写真展を開催し、合計で2,000名を超える来場があった。本取り組みは「わかやま新報」(11月29日付)、「リビング和歌山」(12月2日付)にて紹介された。また、世界銀行東京事務所の Web にも掲載。地域社会への貢献とともに、本学・CJS の広報、ネットワーク形成にも寄与した。



(13) 留学説明会

【JASSO 外国人学生のための進学説明会@大阪】

実施日：2023 年 7 月 4 日（火）

【山東師範大学】※本学開催

実施日：2023 年 7 月 8 日（日）

【ホーチミン市師範大学】※現地開催

実施日：2023 年 12 月 22 日（金）



ホーチミン市師範大学での留学説明会

【JASSO 留学フェア@ベトナム】

実施日：2023 年 11 月 25 日（土）@ホーチミン 26 日（日）@ハノイ

【マレーシア SM ISLAM AL-AMIN GOMBAK 高校】※本学開催

実施日：2024 年 2 月 19 日（日）

(14) 国際同窓ネットワーク(OB・OG ネットワーク)

2022 年、本学留学経験者と留学生の親睦・連携を図り、留学生の資質の向上、及び大学の発展に寄与することを目的とし、「和歌山大学国際同窓ネットワーク」を発足しました。本センターのインスタグラムアカウント、本学国際同窓ネットワークのウェブサイトを開設し、本学の国際交流・留学に関わる情報発信を随時行うことで、OB・OG との持続的な交流を図っています。

【実施概要】

2023 年 10 月 中国（南部）・浙江師範大学の国際同窓ネットワークを結成

2023 年 11 月 ベトナムアンバサダーのロアンさんと「JASSO 日本留学フェア」に出展

2023 年 12 月 国際同窓ネットワークサイトオープン

2024 年 2 月 中国・東北財経大学の国際同窓ネットワークを結成

2024 年 2 月 中国・東北財経大学のアンバサダーに、楊蒼菁さんを任命

【会員数】113 名 （2024 年 3 月 31 日時点）

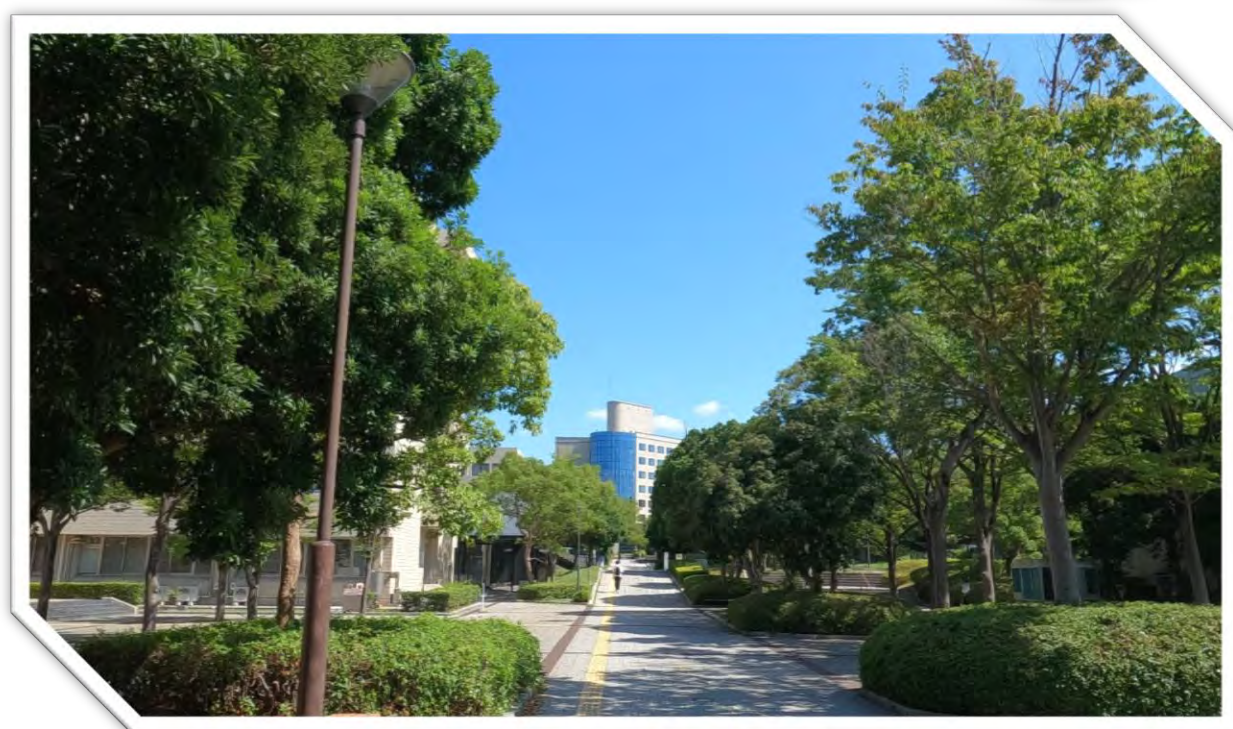


【日本学教育研究センター教職員一覧】 (2024年3月31日 時点)

センター長	長友 文子	教授
副センター長	安本 博司	准教授
	藤山 一郎	准教授 ※編集担当
	石原 伸一	特任教授
	嶋本 圭子	特任助教

【国際交流課】

課長	中元 一恵
副課長/係長	寺本 匠
係員	篁 紘子
係員	貴志 真帆
係員	赤堀 亘
係員	程 奈緒子





Wakayama University
Center for Japanology Studies